

令和8年2月25日

三芳町議会
議長 細谷光弘 様

議会広報広聴常任委員会
委員長 菊地浩二

議会広報広聴常任委員会所管事務調査報告書

当委員会は、所管事務の調査を次の通り終了いたしましたので報告いたします。

- | | | |
|----------|---------------------------------|-------|
| 1. 調査事項 | 議会だよりについて
議会報告会、意見交換会について ほか | |
| 2. 調査場所 | 群馬県千代田町議会
栃木県高根沢町議会 | |
| 3. 調査日 | 令和8年1月28日(水)～1月29日(木)) | |
| 4. 調査参加者 | 委員長 | 菊地浩二 |
| | 副委員長 | 池上義典 |
| | 委員 | 吉村美津子 |
| | 委員 | 光下重之 |
| | 委員 | 桃園典子 |
| | 委員 | 細田三恵 |
| | 委員 | 増田磨美 |
| | 委員 | 牛丸藍子 |
| | 議会事務局長 | 小林豊明 |
| | 議会事務局次長 | 小林忠之 |



群馬県千代田町議会



栃木県高根沢町議会

◎群馬県千代田町議会

1. 調査日時

令和8年1月28日(水)

2. 調査項目

(1)議会だよりについて

(2)議会報告会、意見交換会について

3. 調査事項に関する先進的な取組みについて

・議会だよりについて

千代田町議会の議会だよりは、余白を十分に活かしたレイアウトにより、全体として大変読みやすい構成となっていました。薄い色使いの表紙デザインは従来の常識にとらわれない斬新さがあり、ラックに並べた際にも見出しが分かるよう工夫されるなど、視認性と訴求力を強く意識した誌面づくりがなされていました。表紙写真は特集ページの内容と連動させるなど、読者が次のページをめくりたくなる導線が意識されています。

内容面では、委員会活動や議員の動きを丁寧に掲載することで、議会の活動が町民に伝わりやすい構成となっていました。特に、議員自らが取材や写真撮影を行うことで、町民目線に立った記事作成がなされており、議会活動を身近に感じてもらう工夫が随所に見られました。「突撃インタビュー」などの企画は、議会や議員の行動を積極的に発信する効果的な取組みであると感じました。

また、一般質問ではテーマを一つに絞ることで表現にゆとりを持たせ、「議員のつぶやき」を30文字以内で添える工夫がなされていました。これは事実上の第二の見出しとして機能し、本文への導入として有効であると考えられます。さらに、SDGsのアイコンを活用した表記により、事業内容への理解促進も図られていました。編集体制については、担当者を事前に決める輪番制を採用し、編集スケジュールも明確に設定されていました。原稿の共有や修正には専用アプリを活用し、作業効率の向上につなげている点も特徴的です。先進事例の優れた点を積極的に取り入れ、随時新たな取組みに挑戦している姿勢は、今後の議会だより作成において大いに参考になるものでした。

・議会報告会、意見交換会について

千代田町議会における議会報告会および意見交換会は、限られた時間の中で実効性を高める工夫が随所に見られました。意見交換会のテーマをあらかじめ一つに絞ることで、話題が拡散することを防ぎ、約1時間という短時間でも課題を整理しやすい運営となっていました。

議会報告会は年1回実施され、現在は予算・決算の説明は行わず、委員会報告に特化した構成となっています。委員会ごとの報告時間を10分から3分へと短縮し、その後は車座方式による意見交換を行うことで、参加者が発言しやすい、硬くなりすぎない場づくりが意識されていました。報告に用いる資料についても、各委員会で協議



のうえ作成し、写真を取り入れるなど、分かりやすさに配慮されている点が特徴です。

広聴活動としては、商工会青年部やPTA、区長会など対象を明確にした出前型の意見交換会を実施しており、議会側が課題意識を持って団体に働きかけている点が印象的でした。また、町内に高校がないという本町と共通する条件の中で、中学生を対象とした「中学校出張議会」を開催するなど、若者の声を積極的に拾おうとする姿勢は、将来的な政治参加意識の醸成につながる取り組みであると感じました。

さらに、町民や各種団体との意見交換会で得られた意見を、予算要望へと結び付けている点は、広聴活動を単なる意見聴取に終わらせず、政策形成につなげている好例であり、先進的な取り組みであると評価できます。

4. 三芳町議会に活かしていく際の課題

・議会だよりについて

千代田町議会の取り組みを踏まえ、本町議会において活用を検討する際には、特に住民参加の視点が重要であると考えられます。議会だよりにより住民参加の要素を取り入れることは、町民の関心や当事者意識の向上につながる可能性がある一方で、テーマ設定や取材方法については、事務局業務として対応可能かどうか慎重な検討が必要です。住民の声を直接取材する場合には、意見が特定の層に偏らないよう配慮することも課題となります。

表紙については、記事との連動性を重視するか、住民参加を前面に出すかによって方向性が分かると考えられますが、特集ページに住民参加の要素を盛り込む形であれば、両立の可能性もあると考えられます。表紙は読者が誌面を開くかどうかを左右する重要な要素であることから、改めてデザインの在り方を検討する余地があると感じました。

編集体制については、編集担当を輪番制とし、あらかじめスケジュールを明確に定めている点は、本町議会においても参考になる取り組みです。一方、四色刷りについては、経費面で大きな差があり、本町に換算すると相当な負担増となることから、現実的な導入には高いハードルがあると考えられます。

また、SDGsのアイコンを用いた表記は、議会として国際的な視点を持っていることを町民に印象付ける効果が期待され、本町議会における新たな到達点を示す取り組みとなる可能性があります。「議員のつぶやき」については、一般質問以外のコーナーへの応用も考えられますが、議員個々の意見をどこまで掲載するかについて、掲載基準の整理が必要であると考えます。

さらに、最終ページにおける議会傍聴の案内については、定例会の日程を分かりやすく示すことで、住民の傍聴意欲を高める効果が期待されます。本町においても、最終日を含めた具体的な日程表示が可能か、検討していく必要があると考えられます。

・議会報告会、意見交換会について

千代田町議会の取り組みを踏まえると、出前型の意見交換会を実施することで、より幅広い角度から住民の声を吸い上げることが可能になると考えられます。本町議会においても、各種団体や地域に出向く形での意見交換は、住民の意見や要望を把

握する有効な手段となり得るため、試行的に取り組むことは検討に値すると感じました。

一方で、団体との意見交換会については、実際に参加を希望する団体がどの程度あるのかが課題となります。議会側からの積極的な働きかけが必要であるとともに、意見交換の目的やテーマを明確に示す工夫が求められると考えられます。

中学校出張議会については、若者の政治参加意識を高める有効な取り組みである一方、実施に当たっては教育委員会との十分な協議を行い、教育的意義について共通認識を持てるかどうか重要な課題となります。今年度、本町においても中学3年生を対象とした出前議会を実施し、総合学習の一環として継続していく事例が示されたことから、今後の展開について検討を深めていく必要があると考えられます。

また、議会報告会については、テーマをあらかじめ一つに絞って開催することで、意見交換を深めやすくなる可能性があります。出された意見を各委員会で協議し、要望や政策提言につなげる仕組みが構築できれば、より実効性の高い報告会になると感じました。ただし、委員会別報告による時間短縮は有効であるものの、本町議会の現状を踏まえると、そのまま同様の形式を導入することは難しい面もあり、運営方法については慎重な検討が必要です。

総じて、議会報告会・意見交換会をより住民参加型のものとするためには、テーマ設定、対象団体へのアプローチ方法、関係機関との調整など、複数の課題を整理したうえで、段階的に取り組んでいくことが重要であると考えられます。

5. 調査を終えての所感

今回の視察では、千代田町議会の皆様から温かい歓迎を受け、終始和やかな雰囲気の中で研修を行うことができました。緊張感を和らげていただいたことは、学びの内容とともに大変貴重な経験であり、本町議会においても今後、視察に来られる方々を迎える際の姿勢として前向きに検討していきたいと感じました。

千代田町議会全体として、議員が日頃から積極的に動いているという印象を受けました。議会だよりの記事内容についても、読み手の立場に立って丁寧に考えられており、町民に伝えるという意識の高さを強く感じました。住民の声を写真入りで特集し、要望や意見を分かりやすく編集している点は、大いに参考になる取り組みです。

また、議員自らが日常的に取材を行い、町民との意見交換会を大切にしている姿勢は、議会活動の基本として見本となる素晴らしい取り組みであると感じました。議会だよりの構成や編集においても、個々の能力や工夫が十分に活かされており、

「大河」という名称も、当初は意外性があるものの、住民に浸透していくことで議会と町民をつなぐ象徴的な存在になっていると感じました。

さらに、議会報告会を予算・決算の説明にとどめず、議会活動そのものを報告する場として位置付けている点や、他自治体の先進的な取り組みを積極的に研究し、良い点は柔軟に取り入れている姿勢にも共感を覚えました。とりわけ、住民参加を重視する考え方が、議会だよりや意見交換会の双方に一貫して表れており、本町議会にとっても大きな示唆を得る視察となりました。

◎栃木県高根沢町議会

1. 調査日時

令和8年1月29日(木)

2. 調査項目

- (1)議会だよりについて
- (2)議会報告会、意見交換会について

3. 調査事項に関する先進的な取組みについて

・議会だよりについて

高根沢町議会の議会だよりは、住民の関心を引き付ける工夫と、議会の姿勢が明確に伝わる点が大きな特徴であると感じました。表紙には地元中学生の絵画作品を採用し、作者の思いも併せて掲載することで、関係者や同世代の住民が手に取りやすい構成となっており、若い世代への訴求を意識した表紙づくりがなされていました。また、必要なページのみをカラー化することで特集を際立たせるなど、効果的な紙面演出が行われています。

内容面では、「突撃インタビュー」や「私もひとこと」など、住民参加型の企画が継続的に実施されている点が印象的でした。「突撃インタビュー」は平成28年から約10年にわたり継続され、担当議員が直接住民に会い、取材・撮影・記事作成を行うことで、議会と住民との接点を生み出しています。完成した議会だよりを取材協力者に届けることで、さらなる関心の広がりにもつながっているとのことでした。

「私もひとこと」は、予算・決算時に主要事業について住民の意見や感想を掲載する企画であり、担当委員が関係者や知人、時には担当課の紹介を通じて取材を行っています。決算号では多数の住民の声を掲載しており、その手間を惜しまない姿勢から、住民の中に積極的に入って行く議会の姿勢が強く感じられました。

運用面では、議会だよりは年4回発行され、定例会終了の翌月に発行するなど、スピード感のある情報発信が行われています。記事内容やページ数についても柔軟な予算設定がなされており、内容に応じてページ構成やカラーページを調整できる点は大きな特徴です。また、紙面の端にインデックスのような表示を設けるなど、読みやすさへの配慮も見られました。

さらに、全員協議会で協議された内容のうち、町民に周知すべき事項については

「全員協議会NEWS」として掲載し、執行部とすり合わせることなく議会としての判断で発信している点は、議会の主体性を明確に示す取り組みであると感じました。配布については新聞折り込みを基本としつつ、医療機関や店舗など身近な場所への設置も行われており、住民が手に取りやすい工夫がなされています。

・議会報告会（カフェ・ド・ギカイ）について

高根沢町議会の議会報告会は、「議会として発信する場」よりも「住民の要望を聞く場」として位置付けられており、住民に議会への関心を持ってもらうことを重視した運用がなされています。その象徴として、平成31年2月から名称を「カフェ・ド・ギカイ」と改め、より身近で参加しやすい雰囲気づくりを目指した取り組みがスタートしています。「カフェ・ド・ギカイ」は年4回開催されており、広聴委員会の



委員4名を中心に運営されています。開催回数の多さからも、議会が積極的に住民の中に入り、声を聞こうとする姿勢が強く感じられました。参加者が話しやすくなるよう、カフェでお茶をするような雰囲気を意識した運営がなされ、地域課題を住民と議会が共有する場として機能しています。対象は個人ではなく団体としており、交通指導員、PTA、民生委員、自治会、消防団などに加え、中高生を対象とした開催も行われています。団体の活動を通じて抱えている課題や要望を直接把握できる点は、効率的かつ実効性の高い広聴の取り組みであると感じました。開催にあたっては、事前に質問事項を受け付け、必要な資料を準備したうえで臨むなど、意見交換を深めるための工夫もなされています。「カフェ・ド・ギカイ」で寄せられた意見や要望については、議会だよりに掲載し、完成したものを参加団体へ届けることで一連の取り組みを完結させています。また、内容は各常任委員会に振り分けて協議した後、全員協議会で共有し、必要に応じて町長への提言につなげる仕組みが整えられています。実際に、若手農業者や消防団、防災士等との意見交換をもとに、予算措置や環境整備が実現した事例もあり、住民の声を政策に反映させる先進的な取り組みであると評価できます。

4. 三芳町議会に活かしていく際の課題

・議会だよりについて

高根沢町議会の議会だよりを参考にすると、全員協議会で協議された内容のうち、町民の関心が高い事項を「全員協議会NEWS」として掲載する手法は、議会活動をより身近に感じてもらううえで有効であると考えられます。本町議会においても定期的に会議を行っていることから、住民の関心度が高いテーマを選定し、分かりやすく伝える工夫について検討する余地があると感じました。ただし、掲載にあたっては、執行部との確認や内容調整を丁寧に行う必要があります。

一般質問の掲載については、1人1ページを確保することで十分な余白が生まれ、質問内容や答弁者（町長・教育長等）が明確になり、町民にとって町の方針が理解しやすい構成となっていました。一方で、再質問を掲載しない運用は編集の迅速化につながる反面、議員の意図が十分に伝わらない可能性もあることから、本町議会においては現行の原稿形式を維持することが望ましいとの意見もあり、慎重な検討が必要です。また、紙面端に設けられたインデックスは、読みたいコーナーを探しやすく、導入を検討したい工夫の一つです。

特別企画や住民参加型企画については、地域への関心を高める効果が期待できる一方、タイトな編集スケジュールの中では委員の負担が大きくなることが懸念されます。導入する場合には、あらかじめテーマ候補をリスト化し、複数の委員で役割分担しながら取り組む体制づくりが必要であると考えられます。「突撃インタビュー」については、過去のモニター協力者などから始めることで取り組みやすくなる可能性があるものの、取材・撮影・編集に要する活動量を踏まえると、実施方法の工夫が求められます。

また、定例会終了翌月に発行するスピード感は高く評価できる点であり、「情報は鮮度が重要」という観点からも魅力的な取り組みであると感じましたが、本町議会において実行可能かどうかは、現行体制を踏まえた検討が必要です。加えて、「私もひとこと」や「突撃インタビュー」、「全員協議会NEWS」などの企画は、住民目線に立った有効な手法であることから、導入の可否について検討する余地があると考えられます。

表紙づくりについては、若い世代の関心を引く工夫が課題であり、学校を通じてイラストや作品を募集する方法なども含め、実現可能性を検討していく必要があります。住民にスポットを当てて紹介する企画についても、意義は大きいものの、アポイント調整や取材負担を踏まえた現実的な運用方法を検討することが重要であると考えられます。

・議会報告会（カフェ・ド・ギカイ）について

高根沢町議会の「カフェ・ド・ギカイ」は、住民や各種団体との意見交換を主目的とし、年4回という高い頻度で実施されている点が大きな特徴です。議会だよりの編集担当とは役割を分けて運営していることから、広聴活動に専念できる体制が整えられていると感じました。本町議会において同様の取り組みを実施できるか検討した場合、物理的・人的な制約から、年4回の開催は現実的に難しいとの意見がありました。一方で、開催回数を減らす、既存の取り組みと組み合わせるなどの工夫を行えば、導入の可能性はあると考えられます。実際に、ふれあい座談会と同様、住民との距離が近い形式であることから、普段の議会活動では聞き取りにくい意見を把握できる点は大きな利点です。

また、カフェ形式で少人数の意見交換を年数回行うことで、1回あたりの参加者が少なくても、年間を通して見れば多くの住民と接点を持つことができる点は評価できます。一方で、団体単位での参加を基本としているため、特定のコミュニティに属していない住民の意見をどのように把握するかについては課題として整理する必要があります。報告会を継続的に開催していくためには、対象となる団体の確保も課題となります。団体探しの負担や、継続性の確保については慎重な検討が必要であると考えられます。本町においても、過去に出前型の意見交換会を実施した経緯があるとされており、その際は要望を受けて開催したとのことから、まずは議会側から各種団体に働きかけ、意向を把握することから始める方法も一案であると感じました。

総じて、「カフェ・ド・ギカイ」のような広聴を重視した意見交換会は、本町議会においても今後積極的に検討していく価値のある取り組みであり、体制や開催方法を工夫しながら、無理のない形での導入を検討していく必要があると考えられます。

5. 調査を終えての所感

高根沢町は、稲作を中心とした田園風景が広がる落ち着いた町であり、その中で議会が広報・広聴の両面に力を入れ、積極的に活動している様子が強く感じられました。一方で、自治会加入率の低下により、議会だよりを全戸に配布できないという課題を抱えている点は、高齢化や地域コミュニティの変化という全国的な課題の難しさを改めて認識する機会となりました。そのような状況下においても、少しでも多くの住民に議会の様子を伝えようとする姿勢は、当委員会の重要な使命であると感じました。

「カフェ・ド・ギカイ」の取り組みでは、住民の意見が徐々に町政に反映されつつある点が印象的でした。継続的に意見交換を行うことで、住民側の要望が整理・深化され、町政側の受け止め方にも変化が生まれることが期待され、住民参加の促進につながる可能性を感じました。

議会だよりについては、定例会終了後の早い時期に発行している点が高く評価できる一方、会期が比較的短いという条件があることも理解できました。しかし、それ以上に、議員自らが住民の中に入り、取材や意見聴取を行っている姿勢からは、多くの学びと刺激を受けました。

今回の所管事務調査を通じて、議会だよりの編集や住民との意見交換会について、他議会の優れた取り組みを積極的に学び、取り入れながら改善していくことの重要性を改めて感じました。その積み重ねの中で、本町議会ならではの特色が形づくられていくことで、より魅力ある議会だよりにつながるものと考えます。

当委員会は広報広聴常任委員会として、広聴活動についても、さらに工夫した取り組みや新たな挑戦が求められていることを強く実感しました。住民参加型の議会を目指す熱意と努力に触れ、大きな刺激を受けるとともに、良い取り組みを実現するためには時間と労力が必要であることを踏まえ、委員会としての活動量や体制とあわせて、今後も検討を重ねていく必要があると感じています。

群馬県千代田町議会・栃木県高根沢町議会視察を終えての総括

今回の所管事務調査では、千代田町議会および高根沢町議会の先進的な取り組みを視察し、広報・広聴活動の在り方について多くの示唆を得ることができました。両議会に共通して感じたのは、「議会をいかに住民に近づけるか」という明確な問題意識と、それを形にするための継続的な努力でした。

千代田町議会では、制度や仕組みを丁寧に整え、議会としての役割を明確にしながら、着実に運用している姿が印象的でした。一方、高根沢町議会では、「カフェ・ド・ギカイ」や議会だよりの工夫など、住民の中に入り、対話を重ねる姿勢が際立っており、広聴を重視した実践的な取り組みから多くを学びました。いずれも、すぐに結果が出るものではなく、時間と労力をかけて積み上げてきた成果であると感じています。

両議会の取り組みを通じて改めて認識したのは、議会活動に「これが正解」という唯一の形はなく、地域の実情や議会の体制に応じて工夫を重ねていくことの重要性です。他議会の優れた点を学び、取り入れつつも、そのまま真似るのではなく、三芳町議会として何ができるのか、何を優先すべきかを考え続けることが求められています。

当委員会は広報広聴常任委員会として、議会だよりの充実はもとより、住民の声をどのように受け止め、議会活動に反映していくかという点について、今後さらに工夫と挑戦を重ねていかなければなりません。住民に開かれ、参加しやすい議会を目指すためには、委員会としての役割を再確認し、継続的に改善を図っていく姿勢が不可欠であると感じています。

今回の視察で得た多くの学びと刺激を、今後の委員会活動に確実に活かし、三芳町議会としての特色と強みを持った広報・広聴活動につなげていくことを、委員会としての総括といたします。

以上